

本書の内容そのものに關しては、これによりて多大の裨益を受けたと云ふ以外に今何物をも述べる事ができない。或事情の爲に紹介の筆を執つたものゝ、紹介者もとかゝる内容の批評をなす能力も無く、紙面はまた之を敢てすべき適當の場所でもない。たゞ本書の結構又は論理的なる組立に就いて一言して見たいと思ふ。第一に不審に思はれるのは何故に本書を國際放資論と名づけなかつたかと云ふ事である。所説の内容は徹頭徹尾國際放資の外に出でず、而して國際放資が國際經濟現象の一部である事を認めながら、之を名けて國際經濟論と云ふ、地代論を經濟學と云ひ光學を物理學と云ふに同じい、これ狗肉に羊頭を掲ぐるものである、篤學の著者が何故にかゝる名稱を擇んだかを知るに苦しむ、一四一—一五頁の所論は一も其辨明とはならないのである。第一章國際經濟の概念の章は寧ろ名實の不一致を自ら論證せむが爲に設けられたるものとしか思へない。序ながら、現代を以て世界經濟の時代に非ずとする論據は如何にも充分だとは思へない、著者は國內に於てさへ所謂生産交換消費の組織が意識的に（スベンサアが意識的協働と云へる場合の意味に於て）立てられてゐない事を顧慮せらるべきであつたと思ふ（六頁參照）。次に述べたい事は全體の組織が幾分散漫を免れない、如何にも緊密な統一を保つて居ると云ひ難い事である。第十八章以下の七章は云はゞ事實の叙述である。勿論中には第二十五章米國の對支經濟關係と日米の衝突の如き第二十二章我國に於ける國際放資の如き第二十章國際經濟上に於ける英國の如き著者の氣煩頗る擧れる部分あるに拘はらず、結局そは他の部分と同一の學組織内に攝取せらるべきものではあるまいと

思ふ。こは云はゞ *inegenhisch* の知識である。 *monothetisch* の知識たる他の部分に對しては精々例示たり例證たる以上の力を有しまい。次に前の十七章に就て見るも叙述は頗る統一を缺いた憾がある。純理と政策との混和は多數の經濟學者に免れぬ通弊として看過するとしても、十七章の並列には、重要な大小を顧みず、思想展開の順序を度外にしたる點が少くないと思ふ。資本の國民性、外國に於ける製造場の設立と云ふが如きは第六章國際放資の方法の一節を構成す可きものでないかと見られ、第十一章の國際放資の國民經濟に及ぼす影響は第十七章と相聯結して論ぜらるべきものと見られる。同様の難點は其他にも少からず存在する事を敢て斷言する。實は著者の如き學者自ら之を覺られざる筈はない、唯執筆の都合からしてこんな體裁を取られた事かと思はれるが、しかしそは用意と細心とを缺いた事ではあるまいか。全體を讀過したる時の印象に前に述べた通りであるが、欲を云へば、餘りに平明に過ぎる部分や重複になつてゐる叙述を省略して、更に緊密な手薄い本となつて居たら一層裨益が多かつたかと思はれる。先輩の著書に對して妄評を敢てした點に就ては切に著者の寛恕を望む。東京、寶文館發行。貳圓七拾錢（高田保馬）

### 實習梵語學

萩原雲來著

著者萩原氏が先年公にした「梵語入門」はア、エフ、ステンツラ一氏原著の譯補であつた、其後氏は「梵語入門」講説の際に感じたる必要に基きて今度その原文の位置を換へ更に若干の文句を増加し又は訂正して出版したのが本書である、で兩書の間に大なる

る差異はないのであるが然し元は提婆那伽梨字で書いてあつた處が殆ど全く羅馬字に書き直された事や、字書が別冊にされた事などは初學者に尠からぬ便宜を與ふる事と思ふ、殊に文抄中般若經典、普曜經、法華經、中論、俱舍論、其他原本に倍すべき量を各種佛典中より摘録された事、そして新に悉曇十八章と提婆那伽梨字が對照され、その書法まで詳述されてある事は本書が氏の前者と異なる主な點でこれは佛教梵本初學のものに對して頗る必要にして効果ある試みであると信する、尙かの梵字沿革略表の如きその結果を表示するに至るまでの氏の努力を多とせざるを得ない、然し若し今度かの「梵語入門」に於ける難解の用語が一層解り易く改められ、文法記述の方法が多少なりとも組織的にされたならば、そして又かの造頌法の説明が今少しく詳しくなり、提婆那伽梨字の文抄が尙幾らか加へられたのであつたならばと思はれる、然しこれは私共の至らざる望みであるかも知れない、兎に角本書は梵語初學者の一參考書として適當なものだと信する。

目次一、聲法、二、轉聲法、三、書法、四、造頌法、五、文抄、六、字書(別冊)。丙午出版社發行、菊版二五六頁(字書共)。定價壹圓七拾錢。(本田義英)

## 教育と社會

アーヴィング・キング著  
中島半次郎序  
田村重重譯

譯者田村佐重氏は早稻田出身の秀才であつて飛きにはシラーの「プラグマティズム」を譯し今又キングの Social Aspect of Education を譯出せられたのである。氏が學界に對する努力の旺盛なるは敬服に堪へざる所である。原著者キングは米國アイオウア州立

寄贈書籍雜誌

大學の教育學の助教であつて已に兒童心理や教育學に關する數種の著書もありて學界で相當に知られて居る學者である。原著は千九百十二年の出版であつて第一篇、教育の外部の社會的關係、第二編、教育の内部の社會的方面に分れ、第一章緒論、教育の社會的見地以下二十章に亘り主に米國に於て研究せられたる教育の社會的方面に關する理論及實際の實例等を組織的に紹介し、之れに著者の教育意見を加へ全篇を出来る支系統的に組織したものであつて米國に於ける此方面の研究を知るの資料として有益なるのみならず各主要題目に對する參考書も懇切に示してあつて研究上少らざる便宜を與へて居るのである。譯者は原著の精神及意義を十分明瞭に簡潔に紹介せんが爲め此を上中下の三篇十八章に分つて譯出し其上索引迄も附して居らるゝのである。資料的であつて而かも系統的理論を一貫させやうとした原著の内容を消化して簡潔に譯出することは決して容易の業ではないのであるが譯者の苦心の結果は遂にこれに成功したものと見てよいのである。殊に文章も練れて居つて濫濫難解の點なく普通の譯書に於て得易からざるよき氣分を感じしむるのであつて吾人は學界の爲め譯者の勞を多とするものである。且又中島半次郎氏の序文も研究上懇切なるものであつて本書を讀むに當り先づ此を一讀すべきものと思ふのである。大日本文明協會發行。(小西重直)

## 寄贈書籍雜誌

獨逸思想と其背景 文學博士 朝永三十郎 東京寶文館  
國際經濟論 服部文四郎著 全

一一九